

## 日食初体験は「金環食」(それも名古屋)

財前 京子

時はさかのぼること、3月の例会。みなさんが日食のお話で盛り上がっているとき、ひとり押し黙っていた私。実は当時、その当日は名古屋にいて、観れるかどうかもわからない状況だったからである。前日に野球観戦をして、たぶん祝勝会をやっている、その翌日・・・朝に弱い私が起きれるわけもない。それに私は嵐を呼ぶ女・・・晴れるとは限らない。正直なところ、心ここにあらずであったのはいうまでもなかった。「羽田まで行ってそこでみて、終わったらそのまま帰ろうかな」とつぶやいたのは覚えているが、開始時刻を知らないよい証拠である・・・。

(それでも日食めがねだけはきちんと購入してあったのは、悪あがきであったか?)

さて、時は流れ、5月19日に名古屋入りをして、携帯からフェイスブックで協会のみなさんが着々と準備しているのを読んだ。うううう。ちょっと胸が痛んだ。めがねを買ってただけじゃまずいよね・・・と、20日の朝、ホテルのロビーにあるパソコンで、とりあえず名古屋での太陽の動きを確認することにした。検索でかかったのは、千種区区役所情報。(私がいるのは中区栄、だけど)

そこで私は初めて知るのである。おお、と思ったのである。

「大分は部分日食としてしか観られないが、名古屋では金環食を観ることができる。」

え?そんなことも知らなかったのって?・・・申し訳ない。私はまったく日食にたいしての予備知識を持たずに名古屋まできていたのである。金環食が観られるのは東京くらいだと思い込んでいたのである。(うっそー!)。あの、テレビでみた日本地図と帯を何だと思っていたのだろうか、私は。(ちょっと絶句)

天気予報では、浜松、東京が晴れ間がでそうとのこと。名古屋はちょっとびみょーな予報だったが、大分よりはよいらしい。そんな条件にめぐまれた場所にきていながら・・・(いまとなっては後の祭り)これは観ないわけにはいかないではないか!

区役所のHPで検索をしたら、名古屋大学が観測会をおこなうという情報があったが当然のごとくすでに締め切り。あとはもう自分の力で場所をみつけるしかない。とはいっても、水平線が見える東地点など、ナゴヤドームと栄くらいしか知らない私に、いまから探す時間はない。いまは20日朝の10時。野球は14時スタートだ。夜は祝勝会だ。(勝ったらね。勝ったけど。)

しかたがないので、千種区の情報ではあるが、太陽がかけ始める時間と高度、金環食が始まる時間と高度、金環食の食の時間、太陽が元に戻り始める時間と高度・・・をメモして、外にでる。とりあえず東がひらけた場所なら太陽はみえるはず。ということで、ホテルからそう遠くない場所で、地味に観測(観望)することにきめた。(観測場所というより、ただの道路)天文部の先輩や協会のひとが聞いたら「そんなところで?」という場所だが、この際、観えたらよいのである!観ることに意義があるのである!(やけくそ)

20日の夜はなるべく早く休んで・・・でも興奮とお天気がきになって朝の5時に目覚め

る。北向きの窓から外をみる。右が東・・・うう、段々腹のような雲が、でもうっすらとでているだけだ。西は雲がない。大丈夫かな・・・とまた寝入ってしまった、6時に飛び起きる。日焼け止めをしっかりと塗って(乙女ですから!)観測会場(って、二人しかいないけど)である路上へ向かう。

晴れている。西には雲がでているけど、東はお日様が!!

・・・とはいっても、事前に「正しい見方を!」「目を傷めないように!」という言葉ばかりきいていた私は、日食めがねに信用が持てずにいた。通常めがねの上から日食めがねを当てるのがどうにもうまくいかないため、ちょっと怖かったので、友人のほう先陣をきってくれた。と、「あ、もう欠けよんよー」。恐る恐るめがねをあてて、東を振り返って太陽をみた私・・・

そこには、欠け始めた太陽の姿があった!!えー、太陽も月のように(月よりカーブが曲がって)欠けていくんだ!!!とすごく感動してしまった。そう、私は日食は初体験なのである。観測会にいったこともない、行こうとしたこともない。船田先生の本で何回も拝見していても、実際に自分で観ると、やはり驚きでいっぱいになる。

(ここまで何も知識なしで挑戦する協会員が存在していいのか!)

それから、プリペイドカードの穴を通して光を紙にうつしてみた。正式なやり方など調べもしていないけど、テレビでそういう投影法をやっていたので、とりあえず正しい円を描いている穴を使ってみた。はっきりと三日月おつきさまのような太陽が三つ、並んでうつっていた!(写真は・・・ははは、わかりませんね。でも写っていたんです!)

太陽の光が木々を通す場所がなかったの、木漏れ日を写すということもできず、これが精一杯であった。ああ、もっといい場所を調べておけば・・・というより、真面目に取り組んでいたら!(かなり後悔し始める)

そうこうしているうちに、友人が「あ、もうすぐつながりそうで、光が」。私もめがねをつけておそるおそる覗く。そこには・・・「金環食ってこういうもの!」という紹介とともに載っていた形と同じ、二重になったわっかのよう太陽の姿があった!ああ、これが金環食っていうんだ・・・なんか皆既日食よりも貴重な気がする・・・としばし感動。。

ふとふりかえると、出てきたときより、心なしか薄暗い(心なしか??)ちょっと肌寒い。それまで点いていることすら気づかなかった街灯の明かりがくっきりとみえている。それだけ回りの明るさが暗くなっているということなんだ。。それくらいしか、まわりの変化には気づかなかったし、恐ろしいことに「写真を撮る」ということまで気が回らなかった。

(練習もしていなかったの、そこで誤ったやりかたをやってしまったら怖いし・・・。でもいまとなってはすごく後悔している)

自分がその太陽をみることで精一杯だった。でも、でもすごくうれしかった。一生見ることができないと思っていた日食・・・それも金環食・・・を見ることができたことがうれしかった。(ならもうちょっと準備しなさい!)

と同時に・・・大分でいま多くのみなさんががっかりされているのだなと思うと、何も調べもなく、いきあたりばつたりの私がこうして見えて、なんとなく申し訳ない気持ちにもなった。きっときっと素敵な写真がいっぱい撮れたらうに・・・。

初めての日食が「部分日食」ではなく、金環食だったこと。野球観戦にきたおかげでなんてラッキーなんだろうということ。興奮してしまって、日食を撮ることすら忘れていたこと。あとから振り返ると、ただぼけっと眺めていただけだったな。

あの、初めて月食をアパートの屋上で観測（ノートに鉛筆で、5～10分おきに絵を書いて、雲の様子も記載した）したときの小学4年生の自分のほうが大人だったな、と懐かしく思い出された、数十分であった。

手元に「これ」という写真も何もない。でも、しっかりと目に焼き付けた、金環食。

なんか、何十年ぶりかに、天文活動をやったなという充実感・・・（嘘です）

このレポートは、天文協会とは名ばかりのど素人が、初めて日食というものに接触した、貴重なレポートであった。（っていうことにしてくださいね）

追伸 写真、撮っておきたかったなあ（思い切り後悔・・・）

